

## ベトナム Vietnam Market Report

## 消費・流通・外食動向レポート

5月号  
(2026年)

【編集・発行：株式会社ミヤマプロジェクト】気になる記事がございましたら、何なりとお問い合わせください。

## モダン・トレード（流通・スーパー・コンビニ）

## 1. ガソリン安と物価高の乖離

出典：Vietnam.vn / 産業・貿易ニュース（2026年4月13日付）

内容：燃料価格がピークから30%下落したにもかかわらず、スーパーや伝統的市場（マーケット）での食料品価格が下がらない「価格の硬直性」が問題となっています。

詳細：特に果物（みかん等）や輸送費に依存する製品の価格が高止まりしており、消費者の生活実感を圧迫。商工省は流通経路のコスト透明化を求めています。

## 2. 電子決済プラットフォームへの規制緩和案

出典：Vietnam.vn / 財務省発表資料（2026年4月中旬）

内容：ECプラットフォームを利用する個人事業主に対し、特定の条件下で電子請求書（e-invoice）の発行義務を免除する政令案が検討されています。

影響：これにより、コンビニや小規模モダン・トレード店舗と競合する「ソーシャルコマース（SNS販売）」の事務負担が軽減され、個人消費のさらなる活性化が見込まれます。

## 外食（外資系、カフェ、ファストフード）

## 3. 外資系カフェ・外食チェーンの「高級化・体験型」シフト

出典：4Hoteliers / Vietnam Retail Analysis（2026年4月2日付）

内容：ベトナムの小売・外食市場が2,690億ドル規模へ成長する中、外資系チェーンは単なる店舗拡大から「体験価値」の提供へ舵を切っています。

トピックス：\* パスタ・ピザ：日系を含む外資系イタリアンチェーンが、ハノイ・ホーチミンの新興住宅地（ビンホームズ等）で「プレミアム・デリバリー」を強化。

カフェ：サステナビリティを重視した「クローズドループ（資源循環）」型店舗が、外資ホテルや高級商業施設内で増加中。

## 消費生活のトレンドまとめ（2026年4月）

| 〈カテゴリ〉 | 〈主な動き〉                   | 〈キーワード〉   |
|--------|--------------------------|-----------|
| 流通     | 燃料安が小売価格に反映されず、消費者は慎重な支出 | 物価の硬直性    |
| 外食     | 外資チェーンによる「高単価・高品質」路線の定着  | プレミアム化    |
| デジタル   | EC個人販売者への税制・事務手続きの柔軟化議論  | デジタル経済の加速 |

2026年4月のベトナム市場は、地政学的リスク（中東情勢等）によるエネルギー価格の変動を経験しつつも、内需は依然として強気です。特に、中間層の拡大に伴い、マクドナルドやスターバックス、あるいはピザ・フォーピース（Pizza 4P's）のような、\*\*「単なる食事以上の価値」\*\*を提供する外資系・近代型店舗の存在感が、主要都市のロードサイドでより顕著になっています。

## ピザ・パスタ：体験型レストランの旗手

この分野で最も注目されているのは、日本人が創業し、現在は外資（メコン・キャピタル等）の支援を受けて急成長している Pizza 4P's です。

具体的な動き：\*「Edutainment（教育＋娯楽）」店舗の拡大：2026年4月のトピックスとして、ハノイやホーチミン郊外の新興地区で「チーズ工房併設型」や「都市農業体験型」の大型店舗が話題です。

メニュー：自社製ブッラータチーズを使ったピザ（約300,000～500,000 VND）が不動の人気ですが、2026年は「ゼロ・ウェイスト（廃棄ゼロ）」をテーマにした、規格外野菜を活用した限定パスタメニューが好調です。

実績：2023年以降、純利益は前年比30～40%増を維持しており、2026年もその勢いで国内100店舗体制を見据えた出店を加速させています。

## カフェ：スターバックスの「リザーブ」戦略とローカルの追撃

ベトナムのカフェ文化は非常に成熟していますが、2026年は「サードプレイス（第3の場所）」の再定義が進んでいます。

Starbucks Vietnam（スターバックス）：

戦略：2026年4月時点で、ベトナム国内で120店舗以上を展開。一般的な店舗よりも高単価な\*\*「Starbucks Reserve」\*\*店舗を、高級マンションの1階や歴史的建造物内に集中出店しています。

限定メニュー：ベトナム産「ダラット・コーヒー」の希少豆を使用したハンドドリップ（1杯 100,000 VND超）が、高所得層やビジネス層の間でステータスとなっています。

競合（Highlands Coffee / Phuc Long）：

最大手のHighlands Coffeeは、従来のセルフサービスから、一部店舗で「テーブルサービス」や「高級インテリア」を導入したプレミアム店舗のテスト運用を開始しています。

## ファーストフード：ミシュラン基準とデジタル化

「早く安く」から「高品質をゆったりと」への転換が起きています。

McDonald's & KFC:

話題の出店：2026年4月、ホーチミン市の1区中心部に、最新の\*\*「体験型キオスク」\*\*を備えた旗艦シップ店が登場。モバイルオーダーと連動し、テーブルまでスタッフが運ぶホスピタリティを強化しています。

メニュー：「植物性代替肉バーガー」や、ミシュランガイドのベトナム版掲載（2023年～）による外食全体の意識向上を受け、地元食材を厳選した「プレミアム・チキン・シリーズ」が人気です。

## 2026年4月のベトナム政治・経済・社会トピックス

### 1. レ・ミン・フン新首相の選出と「5柱」体制の確立

第16期国会において、ベトナム史上最年少（55歳）の首相として、元中央銀行総裁のレ・ミン・フン氏が正式に選出されました。これにより、トー・ラム書記長（国家主席兼任）を中心とした新指導体制「5柱」が本格的に始動しました。

### 2. 年平均10%超のGDP成長目標を宣言

フン新首相は就任演説にて、2026年から2031年の任期中に年平均10%以上のGDP成長を目指すことを表明しました。単なる成長ではなく「飛躍的発展」を掲げ、現代的で国民に奉仕する政府の構築を重点方針としています。

### 3. 輸入急増による貿易赤字と生産拡大の兆し

4月単月の貿易収支は約32.8億USDの赤字となりました。しかし、輸入の多くが今後の輸出拡大に向けた機械や原材料であることから、経済専門家はこれを「将来の生産加速に向けたポジティブな動き」と分析しています。

### 4. インフレ圧力への警戒（CPI 5.46%上昇）

4月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比で5.46%上昇しました。世界的な燃料価格の高騰に伴うガ料金金の値上げや、建設資材・住宅価格の上昇が主な要因となっており、政府はマクロ経済の安定化を最優先課題としています。

### 5. 大規模インフラプロジェクトの相次ぐ進展

ホーチミン市でのメトロ2号線延伸や新行政センターの一斉起工、さらにハノイとクアンニン省を結ぶ国内初の地域間高速鉄道の着工など、経済成長を支えるための大規模なインフラ整備が加速しています。